

キーワード | 在宅での看取り、デスカンファレンス

在宅看取りができる地域づくりのための「玉東町デスカンファレンス」の開催

熊本県 玉東町

【この事例の特徴】

玉東町地域包括支援センターを事務局として、町内の在宅療養支援診療所、介護福祉事業所、社会福祉協議会が協働し、“看取り地域包括ケアシステム”の構築をめざして、看取りを行った経験を共有するデスカンファレンスを開催している。平成 24 年度は 4 回の事例報告が行われている。

地域概要

総人口:	5,625 人
65 歳以上人口:	1,727 人(30.7%)
75 歳以上人口:	968 人(17.2%)
要介護要支援認定者数:	325 人(18.8%)
地域包括支援センター数:	1カ所
第5期介護保険料:	5,160 円



背景・経緯

- 平成 20 年に町内に 1カ所の在宅療養支援診療所院長が、在宅の看取りを行った関係者等で“デスカンファレンス”を開催したことが契機となっている。
- 行政の立場からも、この活動を重視し一部の事業所に留まらない町全体の医療・福祉・介護保険関係者並びに地域住民も参画する在宅療養推進体制構築への一歩と捉え積極的な支援をした。平成 23 年度には関係者の熱い要望を受け、事務局を当地域包括支援センターへ移し、同年「玉東町デスカンファレンス運営会議」を発足した。

取り組み内容と方法

【取り組み方法】

- 玉東町が直営する玉東町地域包括支援センターを事務局に、町内の在宅療養支援診療所、介護福祉事業所、社会福祉協議会が協働し、“看取り地域包括ケアシステム”の構築をめざしている。協働の場は「玉東町デスカンファレンス」とその開催を支える「玉東町デスカンファレンス運営会議」である。
- まず、事務局(行政)は、運営スタッフに「玉東町デスカンファレンス運営会議」の日程調整をし、運営会議開催する。ここでは、事例の確認や発表者の協議が主である。会議前後の詳細な調整も不可欠で、以下のことを具体的には実施している。
- 看取りの介護に係わった多くの関係者に、具体的なケアの内容や当事者や家族の様子を話してもらえるように促す。が、個人情報保護の観点からよく吟味して行っている。
- デスカンファレンスへの参加者は一般から各種専門職まで多岐にわたるため、多くの方にわかりやす

い内容になるよう工夫し、パワーポイントや配付資料を作成する(参加者・職種等:家族、医師、薬剤師、臨床心理士、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉士、福祉用具選定士、生活支援相談員、行政職員、大学教育関係者、民生委員、一般住民)。

【開催実績】

- 玉東町デスカンファレンスは、カンファレンスの場に提供可能な看取りの介護事例が挙がる度に開催している。平成 23～24 年度における開催状況は以下の通りである。

回	開催日	デスカンファレンスの内容	参加人数
13	H23.9.14	自宅事例～三世代家族、共働き夫婦が支えた看取りの介護～	49 名
14	H 23.9.28	施設事例～訪問看護事業所と認知症介護施設(グループホーム)が連携した看取りの介護～	37 名
15	H 24.2.8	自宅事例～三世代家族が暮らす果樹農家を営む家での看取りの介護～	83 名
16	H 24.4.24	自宅事例 ～高齢な両親の介護をとおして家族関係が修復に向かった看取りの介護～	46 名
17	H 24.10.11	自宅事例 ～主たる介護者を家族が精神的にサポートすることで可能となった看取りの介護～	59 名
18	H 24.2.7	施設事例 ～認知症の高齢者に対する介護職員と医師の連携が柱となった看取りの介護～	80 名
19	H 25.3.21	退院時支援からはじまった在宅での看取り ～入院時から在宅療養願望が非常に強かった高齢者の看取りの介護～ 共催:公立玉名中央病院(近隣の玉名市に所在)	83 名

取り組みの成果と課題

【成果】

- 現在では玉東町近隣市町はおろか、熊本県庁職員や県下の遠方から行政関係者等の参加がある。
- 開催から 6 年目をむかえ、年々開催回数や参加事業所数も増え周知されつつある。既に 19 回のカンファレンスの開催、延べ 1,031 名が参加している。近隣医療機関に少しずつ認知され、退院支援の要請が増えているのはその成果と考えたい。

参考 URL、連絡先

- 玉東町 保健介護課 地域包括支援センター
<http://g-houkatsu.com/>
0968-85-6242